

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 29 年度第 10 回）議事録

日 時：平成 30 年 1 月 26 日（金）10：00～11：20

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第 1 会議室

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、門田守人理事、南砂理事、松本洋一郎理事、児玉安司理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成 29 年度第 9 回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を間野理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 認定臨床研究審査委員会

資料に沿って報告、了承された。

主な意見等

- ・必要経費を賄うだけでなく、大局的視点も重要ではないか。政府から現場に任せ過ぎるのは、よくない。
- ・制度の趣旨を考えれば、コストを明確化した上、公的研究費とあわせ、政府の責任で運営基盤を確保することが重要ではないか。
- ・委員会運営への政府からの支援について、調整の結果 30 年度に 200 万円交付されることとなったが、31 年度以降の見通しはなく、さらに要請していくことも重要。
- ・審査料について、委員会を設置する機関ごとの差が大きくなるのではないか。また、既存委員会の業務に従事する職員について、業務分担を変更するのであれば、その費用も考慮する必要があるのではないか。
- ・臨床研究審査について、集約化・効率化という大きなトレンドがあるので、NCC としては、審査拠点としての機能を中期的に資産として蓄積できるよう、当面、様子を見つつ、具体的に対応していくということではないか。

III. 報告事項

1. 患者・家族との意見交換会

資料に沿って報告された。

2. がんゲノム医療中核拠点病院申請

資料に沿って報告された。

3. 光免疫療法治験

資料に沿って報告された。

4. 自覚的ストレスとがん罹患との関連

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・肝がんでリスクが高かったとされているが、大きな原因である感染症との関係をどう考えればよいか。(感染症以外の要因としてストレスが考えられること、部位別では症例数が少なくなるため、更なるデータでの検証が必要であること等を説明。)

5. 国際がん登録協議会理事長へのNCC職員就任

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・我が国で開始した全国がん登録が国際的に評価されている面もあるのではないか。今後、IARCとの関係も強化し、全国がん登録の成果をアジア地域に生かしていくことが重要。

6. 6か年計画・30年度予算等

資料に沿って報告された。

7. 旅費規程の見直し

資料に沿って報告された。

8. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

9. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

10. 広報実績

資料に沿って報告された。

11. 12月分月次決算等

資料に沿って報告された。